

若いけど！

Vol. 11 / 2016年05月09日発行

おばちゃん通信



☆平成 28 年度予算

横須賀市平成 28 年度の予算が決まりました。毎年第一回定例会で、4 月からの一年間の予算を決めます。本市の会計には、教育や福祉、消防や土木など住民のために行われる行政運営の会計である一般会計、公共料金や利用料、保険料など独自の収入がある特別会計（国民健康保険費や介護保険費、後期高齢者医療費など）、そして横須賀市が公営企業として経営している水道事業、下水道事業、病院事業会計などの企業会計があります。

今年度の一般会計予算は総額 1465 億 1 千万円です。昨年度より 5 億 6 千万円増加しています。これは社会保障費の 12 億円増、臨時福祉給付金（平成 26 年 4 月に消費税が 8% に上がったことによる所得の低い方々への給付金）12 億円の増加などによります。単年度の財源不足を補うために取り崩された財政調整基金等（財源に余裕のある年に積み立てている自治体の貯金）の額は 59 億 5 千万円です。社会保障費が増加する一方で、市税収入など基幹的な歳入が減ることで、財政調整基金等を取り崩さなければならない状態は平成 14 年度より続いています。（平成 27 年度末の財政調整基金など残高見込みは 136 億円です。）

予算の使い道として、健康・福祉費が最も割合が高く、45.9%。都市基盤費が 9.7% で、教育・文化費が 9.4% となっています。議員報酬などを含む議会は予算全体の 0.6% にあたります。過去の地方債の償還や利子に充てる公債費は、予算の中の 11% を占めています。借金を返す額より、新たに借りる額の方が多くなってはいつまで経っても財政状況は良くなりません。そこで本市では、財政基本計画というものを立て、その中で、新規の市債借入額を元金償還額（公債の返済にかかるお金）の 90% 以下に抑制しています。（28 年度は通常債 新規発行比率 78.1%）

予算についての質疑は各委員会の中で行われます。私は総務常任委員会に所属していますが、中でも特に質疑の多かった事業を紹介します。

・都市イメージ創造発信事業

これは住むまちとして横須賀を選んでもらうべく、都市イメージ向上と、その発信をしていく事業です。平成 28 年度大きく予算をつけられたのが英語コミュニケーション環境の充実です。市内外から「外国人と交流する機会がある」イメージを持たれている本市。また、子育て世代の多くが「こどもに英会話を身に着けさせたい」と考えている、といった背景から、横須賀市ならではの環境を活かした「英語が学べるまち」づくりが進められています。

具体的には英語に親しむイベントの開催や情報発信、横須賀イングリッシュキャンプ（全行程を英語だけで過ごすキャンプ）の開催、横須賀ホームビジット（市内の外国人家庭で英語生活体験）の推進などがあげられています。



・横須賀野菜ブランド化事業

地産地消推進事業の一環としての新規事業です。横須賀では一年を通し、多くの野菜が採れ、市内の飲食店や直売所などで楽しむことができます。しかし横須賀で野菜が作られていること、は意外と市外の人たちには知られていません。そこで一般社団法人日本野菜ソムリエ協会と連携して、横須賀野菜をPRしていこう！となり、今回事業化されました。市内にいる野菜ソムリエ資格者（ジュニア野菜ソムリエ 112名、野菜ソムリエ 3名）を対象に、横須賀野菜をPRする事業への参加意思等調査、その後参加意思のある野菜ソムリエの方々に市内外のイベントや、大型店舗催事に参加し、横須賀野菜のPRをしてもらう予定です。当初予算案ではジュニア野菜ソムリエ資格取得講座の市内開催とその講座を受講し、資格を取得した人対象の補助金として、一人当たり6万8千円の補助金を出すことも盛り込まれていましたが、費用対効果が見えにくいこと、横須賀市の希望通りに活動してくれるとは限らないことなどを理由に計175万9千円を減額修正しました。



☆その他の委員会で話された平成28年度の事業で、気になるものをピックアップ

前回の通信で地域包括ケアシステムについて書かせてもらいました。横須賀市では在宅での療養を望む市民とその家族のため、在宅療養診療所を増やし、在宅患者に関わる多職種連携を強化し、在宅療養についての啓発を行います。また認知症施策として、認知症初期集中支援チームを設置します。介護人材の確保や定着支援として介護施設・事業所向けに職員研修を行います。今後は回復期病床が足りなくなることが予測されるので、今年の10月には市民病院に地域包括ケア病棟（34床）が開設されます。

今年度より義務教育9年間を見通した小中一貫教育が進められます。校舎は別ですが、学びの系統性や連続性を重視した教育を行うことで、学力向上やいじめ、不登校の減少を目指す、とのこと。この取り組みがどのような効果をもたらすのか、しっかりと注視したいと思います。また学校司書が全校に配置されることになりました。子どもたちの読書活動が豊かなものになることを願います。中学校給食についての検討も始められます。7月の総合教育会議の場で決定されるようです。



☆おばちゃんレポート

かもめ助産院：横須賀市では昨年10月より産後ケア事業がスタートしました。市内に住所がある産後4か月までのお母さんと赤ちゃんは、だれでも産後ケアが受けられます。利用上限回数は、県内で一番多いです。現在始まって半年ですが、ほぼ毎日利用者がいて、ケアを受けたお母さんたちはみなさん、大変満足されているようです。今後も意見をきき、本事業のさらなる充実ができれば、と思います。

おばたさおりプロフィール

1985年10月3日生まれ。30歳。平作小(閉校しました)、池上中、横浜市立金沢高校卒業。語学学校を経て、ディアプロバレーカレッジ進学。カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)に編入し、卒業。学習塾、フリースペース勤務を経験。児童養護施設や市内小学校でのボランティアも経験。2015年横須賀市議会議員選挙にて5625票を得て、当選。現在1期目。

<ご意見、ご相談、ご質問など、皆様からのお声をお待ちしています！>

移動事務所：080-1161-4031またはinfo@obatasaori.com

ブログも更新中です！「おばたさおり」で検索してみてください。